

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	栃 木 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	内郡南河内町立南河内中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	
生徒数	87	95	105	4	291	

研究の概要

1. 研究主題

一人一人の個性を生かした学びの充実と確かな学力の向上 ～ 個の特性を生かす指導法の開発と評価を通して～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年、全教科で実施する。 これまで本校は、「基礎・基本を身につけ、主体的に課題を解決しようとする生徒の育成」(～豊かな表現力・社会力の育成をめざして～)という学校課題の研究に学習指導要領の趣旨に基づいた指導法の工夫・改善を図りながら、全教科で取り組んできた。生徒の実態調査の結果をもとに、さらに学習指導要領でねらっている「生徒一人一人に、豊かな人間性や基礎・基本を身につけさせながら、個性を生かし、自ら学び自ら考える力などの育成」を図りたい、と考え全教科をあげて取り組むこととした。
---

(2) 年次ごとの計画

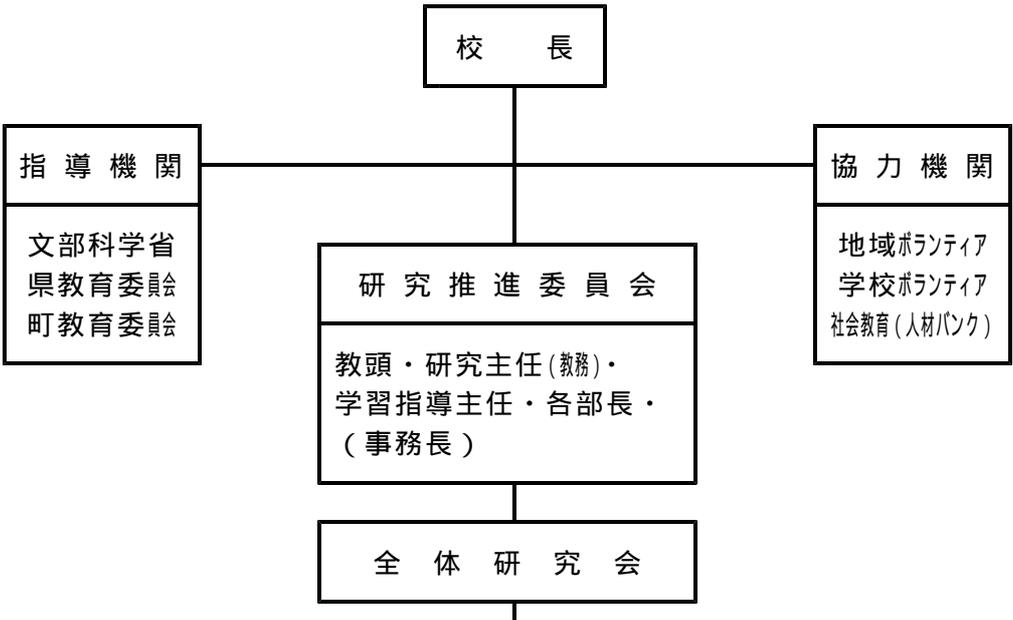
平成15年度	テーマ 生徒の実態調査から学習意欲面、学習の達成状況について考察し、個の特性を生かす指導法の開発と評価を生かした確かな学力の向上のための研究の推進充実を図る。 研究の見通し(仮説) ア、各教科における個に応じた学びのための指導法や指導体制の開発。 イ、達成感のあるわかる授業の展開による自己の学習状況の的確な把握。 ウ、評価を生かした補充・発展学習の工夫・改善。 エ、自己評価能力の育成による「学習意欲」の高揚。 研究の内容・方法 (1) 生徒の実態調査から、学習意欲面、学習の達成状況について考察し研究の推進充実を図る。 (2) 地域人材活用の導入による個に応じたきめ細やかな指導の推進を図る (3) TT指導体制学習、コース選択学習、問題解決的学習等、個に応じたきめ細やかな指導の推進を図る。 (4) 形成的評価の実施による短時間での補充・発展指導の工夫改善を行う (個の理解度を上げるための学習の仕方と工夫ある教材・教具を活用した補充指導) (教材の質を吟味し、興味関心や思考力を高める発展学習) (5) 評価計画の修正及び評価の客観性、妥当性、信頼性を高めるとともに多様な評価方法の開発を行う。
--------	---

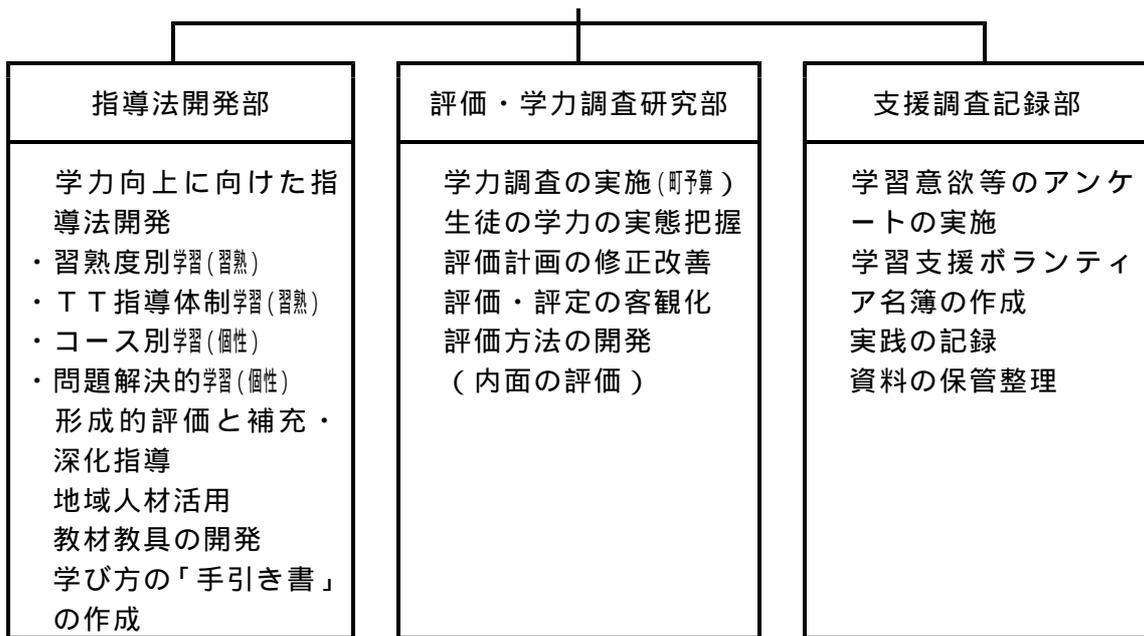
(6) 効果的な学習方法にかかわる「手引き書」の作成により、学び方のガイダンス、学習意欲の高揚を図る。

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>1年次の研究実践を基に、「わかりやすい授業」の実施、「学習意欲を高める指導」の充実、「形成的評価の実施による短時間での補充・発展指導」のための工夫・改善を生かした確かな学力の向上のための研究推進を図る。</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>ア、各教科における個に応じた学びのための指導法や指導体制の開発。</p> <p>イ、達成感のあるわかる授業の展開による自己の学習状況の的確な把握。</p> <p>ウ、評価を生かした補充・発展学習の工夫・改善。</p> <p>エ、自己評価能力の育成による「学習意欲」の高揚。</p> <p>研究の内容・方法</p>
	<p>(1) 生徒の実態調査から、変容等について考察し研究の推進充実、成果の把握をする。</p> <p>(2) 地域人材活用のさらなる充実を図る。</p> <p>(3) 習熟度別学習、TT指導体制学習、コース選択学習、問題解決的学習など、個に応じたきめ細やかな指導のさらなる充実を図る。</p> <p>(4) 形成的評価の実施による短時間での補充・発展指導の工夫改善を行う。 (教材の質をさらに吟味した、興味関心や思考力を高める発展学習) (補充・発展指導のための時間の教育課程上への位置付け) (個の特性を生かす発展的な指導のための教材の開発)</p> <p>(5) 自己評価能力の育成のための工夫・改善を行い、メタ認知力を高めるとともに学習意欲の高揚を図る。</p> <p>(6) 評価の信頼性や多様な評価方法の開発と情報の発信を行う。</p>

(3) 研究推進体制

研究の推進に当たっては、全職員で共通理解を図りながら取り組むものとし、各部の有機的な関連を図りつつ意図的・計画的に研究を推進し、研究内容等を考慮して、以下のような研究部会を設置した。





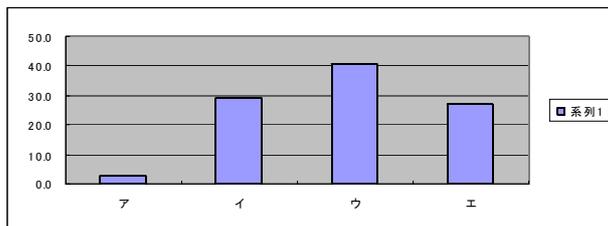
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1 研究の成果

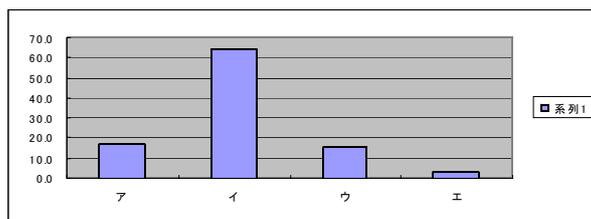
(1) 生徒の学習意欲に関する調査

学習意欲にかかわる 状況を把握するためにアンケートを実施し、結果を基に生徒の実態を分析してみた。その抜粋を以下に述べる。

- ・勉強は好きですか。
  - ア 好き
  - イ だいたい好き
  - ウ あまり好きではない
  - エ 好きではない



- ・授業の内容は理解できますか。
  - ア よく理解できる
  - イ だいたい理解できる
  - ウ あまり理解できない
  - エ ほとんど理解できない



以上のように生徒の実態が満足できるものではないので各教科の学習において、生徒の意欲を高めるためによくわかる授業の実践の研究が必要となってくる。

(2) 学習の達成状況にかかわる調査

各教科の学力の達成状況を把握するために、「標準学力検査C R T (目標に準拠した評価)」「指導要録の評価」「教育課程学力達成状況調査」等の分析を行い、各教科の観点ごとの達成状況について以下のような表にまとめた。

教科名	おおむね良好な観点	不十分な観点	備考
国語		知識・理解	全体的に良く
社会	関心・意欲・態度	思考・判断	

数学	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	
理科	関心・意欲・態度	科学的な思考	
音楽	関心・意欲・態度	鑑賞の能力」と「表現の技能	
美術	関心・意欲・態度	創造的な技能 鑑賞の能力	
保体	関心・意欲・態度	運動の技能」と「知識・理解	
技家	関心・意欲・態度		おおむね良好
英語	表現の能力	知識・理解	

以上のような状況より学習の達成状況については総じて次のようなことが言える。

「思考・判断」「知識・理解」を向上させる指導が求められる教科が多い。

「関心・意欲」について良好な状況の教科が多いが、この観点の評価規準の見直しや、問題解決の意欲にまで高める必要がある。

また、C R Tの実施により、各教科の評定が妥当なものになっているかどうかを確認するために5段階評定の割合の比較を行いC R Tとの相関をみてみた。おおむね妥当なものとなっているが、教科によりわずかに差が見られたので今後の評価の参考としたい。

### (3) 個に応じた指導法や指導体制の開発

#### 学習支援ボランティア活用

地域人材活用による学習支援ボランティアの導入を行い、個に応じた指導、基礎・基本の定着に努めた。南河内町の社会教育課（人材バンク）との連携の下に、本校独自の学習支援ボランティア名簿を作成し実施した。現在の登録人数は46名になっており、6教科で実施している。10月からスタートして12月現在で、延べ130時間の実施ができた。理科では次のような実施状況である。

ア、実験実習で、器具の取り扱いなどの支援ばかりでなく、前日に予備実験の打ち合わせなどを行いながら進めた。

イ、成果として、正確な実験実習ができ失敗するグループが減ったことや、T T体制のため、生徒の多様な質問に答えることができたため、学習意欲を高めることができた。生徒へのアンケートから、普段の授業に比べて、・スムーズに実験ができた78%、・安心して取り組めた73%、・先生が多いので質問しやすかった59%という結果がえられ、かなり効果的であったことが確認できた。

ウ、課題としては、打ち合わせの時間をどう確保するか、互いの日程調整、学習ボランティアの指導と支援を区別した生徒とのかかわりが上げられる。

#### 達成の違いによる習熟度別学習の実践例（英語科）

習熟状況によって3人の指導者による少人数指導を行った結果、個の学習の達成度を上げる効果が認められた。各指導者は、習熟度Aの生徒への支援をA L T、Bを学習支援ボランティア、Cを英語科教員が担当し、個に応じたきめの細かい指導を行った。リーディングに重点をおいた習熟度別の少人数指導（A 11人、B 12人、C 6人）を行ったが次のような状況である。

ア、英語の発音について、本物の発音、熟練した発音、わかりやすい教員の発音という習熟に応じた指導者の指導によるステップアップをねらい、授業の中での学習の達成状況を上げることができただけでなく、特にCの生徒が感想として「楽しかった」と自己評価表に書いていることから、学習意欲の高揚にかなり効果的であったものと考えられる。

イ、課題として学習支援ボランティアメールによる打ち合わせをしているが、学習内容にかかわる調整が不十分である。

個の興味によるコース選択学習の実践例（家庭科）

学習指導要領に示されている基礎・基本の範囲だけでなく、これを越える学力を身に付けさせ伸びる部分をより伸ばしたり、さらなる「学ぶ意欲」の高揚を図るために、生徒に課題別、興味・関心別によるコース選択学習の導入に努めた。次は家庭科における実施状況である。

ア、「郷土料理」の題材においてグループごとの学習支援ボランティアの方との課題別、興味・関心別による調理実習により、「かんぴょう」という郷土の食材を利用した調理実習を複数コースで行った。実習後に生徒は、郷土料理の紹介という形で家庭での実践化を図ることができた生徒も数多く見受けられた。

イ、実習後の自己評価表の記録によると、「グループごとに教えていただいたのでわかりやすく、スムーズに実習ができた。」という感想がほとんどであった。また、一部「見られているようで緊張した。」と感じた生徒もいるため学習支援のあり方についての工夫が求められる。

(4) 指導内容と評価計画の見直し

各教科の指導内容と評価計画の見直しを行い、A・Bの評価規準を設定し、それを基に評価を行うことで、評価の妥当性、信頼性を高める取り組みを行った。国語科、音楽科での実施状況は次のようである。

ア、「評価規準」の作成にあたっては、教科の指導事項の確認、国立教育政策研究所の評価規準をもとに、具体的評価規準を教材ごとに作成した。

イ、アの結果として評価規準が精選され、目標がはっきりしてきた。指導するにあたって目標がはっきりし、生徒も「つきたい力」を意識して授業を受けるようになった。

ウ、データの分析については、達成度がCの生徒の割合を数値化したため、その学習内容が難しい課題であることがわかり、指導の改善につなげることができ、Cの生徒に対する手立ての工夫を行うことができた。

次の例は国語科のものであるがこのような形で全教科で作成している。

月	指導事項	主な学習活動	評価の観点					教材名	おおむね満足できると判断される状況（評価の方法）	十分満足できると判断される際のキーワードとその具体的な例	「努力を要する状況」と判断できる生徒への指導の手立ての例
			関	話	書	読	言				
7	A エ 相手の立場や考えを尊重し、話し合いが目的に沿って効果的に展開するように話したり聞き分けたりして、自分の考えを深めること。 〔言語事項〕 (1) エ 相手や目的に応じて話や文章の形態や展開に違いがあることに気づくこと。	パネルディスカッションの方法やその有効性を理解する。 テーマを決定し、立場を設定したうえで、発表内容を検討する。 情報を収集・整理する グループごとに発表内容を決め、発表原稿を作る。					1 エ パネルディスカッションをしよう (6時間)	(言)〔テスト〕 ・パネルディスカッションの方法やその有効性についておおむね説明することができる。  (関)〔観察、自己評価〕 ・グループの話し合いに積極的に参加している。	(言) 正確に理解 ・パネルディスカッションの方法やその有効性について正確に説明することができる。  (関) 話し合いの中心、進んで司会、進んでパネリスト ・進んで話し合いの司会をした	(言) ・ワークシートの見直しをさせる。  (関) ・基本的な述べ方や、組み立てを確認させる。 (関)	

## 2. 今後の課題

まず、生徒の学力にかかわる実態把握を行い、全教科で「確かな学力を身に付けさせるための指導のあり方」についての研究実践を進めてきた。今後の課題として次のような課題が挙げられる。

生徒の「学習意欲を高める指導」の充実。

習熟度別学習、TT指導體制の工夫・改善、地域人材活用のさらなる推進等による、個に応じた学びの充実を図り、「思考・判断」「知識・理解」「技能・表現」についての学力の向上をめざした指導の充実を図る。

形成的評価の実施による短時間での補充・深化指導の充実を図るための時間の教育課程上への明確な位置付け。

教材の質を吟味し、興味・関心や思考力を高める深化学習や個の特性を生かす発展的な学習のための教材の開発。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・「学力の達成状況」の把握・・・教研式標準学力検査(CRT)の実施(5月)
- ・「学ぶ意欲」の実態把握・・・自作アンケート生徒用(6月)
- ・「生徒の学習状況」の実態把握・・・自作アンケート保護者用(6月)
- ・「生徒の学習状況」の実態把握・・・自作アンケート教員用(12月)
- ・指導要録各教科の評価分析・・・平成14、15年度分(3月)

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度県学力向上フロンティア事業研究協議会  
期日・場所 平成15年12月12日(金)とちぎ青少年センター  
対象 県内小中学校フロンティアティーチャー  
平成15年度南河内町教育研究所研究集録、紙上発表  
時期 平成16年2月  
対象 南河内町内全教職員及び教育関係者

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上
- 【指導體制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他
- 【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無